

3 酒蔵の町天領大山のまちなみに学ぶ会

活動のテーマ：酒蔵の町天領大山まちなみデータマップの作成

活動の特徴

外部の専門家の指摘をきっかけとした住民のまちづくり意識の醸成



活動対象地域 山形県鶴岡市



キーワード

大山酒と慶応村絵図

団体のミッション

古くからの町並みが残っている地域で、140年前に作成された村絵図と現状との比較から町並みの変遷を明らかにし、住民のまちなみ・景観維持認識を高める。

助成対象活動の背景

活動の成果を今後の地域のまちづくりに活かすため、これまでの愛好家のみによる勉強会を住民、大学、行政の協働の取り組みとして展開させる。

この団体とは・・・

地区内の古い建物や町並みの価値を住民に訴える地域資源愛好家の組織

活動内容

- ・文献・資料の調査
- ・まちなみ・建造物のリストアップ
- ・まちなみ・建造物等外観調査
- ・対象建造物の個別調査
- ・酒造り、酒蔵の変遷等の調査
- ・データマップ作成
- ・報告会・まちあるきの実施

団体設立時期 2005年7月
代表者 中浜 裕
連絡担当者 渡部 修吉（志田 忠）
連絡先 住所 〒997-1123 山形県鶴岡市友江町23-71 大山自治会内
(〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9-25 鶴岡市役所内)
電話 0235-33-3214 (0235-25-2111 内線460)
FAX 0235-33-0893 (0235-25-2059)
E-Mail - (shida001@city.tsuruoka.yamagata.jp)
ホームページ

1. 団体の設立経緯と目的

1) 地域社会の状況

鶴岡市大山地区は、戦国の武将・武藤氏が太浦城に拠点を移した天文元年（1532）頃以降、その城下に武士や町人を住ませたことに始まるが、その後、本庄氏、上杉氏、最上氏、庄内藩酒井氏の支配の下で次第に整えられ、大山藩酒井家（酒井忠解慶安2年（1659）～寛文9年（1669）一万石）のお屋敷がおかれた頃には、城下町としてのまち構造は成立していたと思われる。

その後酒井忠解の死により大山藩は断絶され御料（天領）として独自の歴史を刻むことになるが、この間大山酒はまちを支える主産業として発展して来ている。

地区内には、酒蔵を始め近世・近代につくられた上質な民家群が相当数連たんし良好なまちなみが残っている。また町の骨格を成す道路・水路・町割りなどは、今なおほぼその原形を留めている。

しかしながら、時折まちの風情に親しむ心ある方々の来訪が見受けられるものの、これらの酒蔵・民家群、まちなみについては、相応の調査が為されないまま放置されている。

加えてこの町は、地方都市に普遍的な少子化、高齢化の大きな流れの中にあり、これらの酒蔵・民家群の維持管理は中々に行き届かず、中には住人を失って廃屋の憂き目を見ているものもある。

さらに、世代交代と共に、老朽化を理由とする建替えの動きは止めるべくもなく、徐々にではあるが確実に、そのまちなみ・風情は失われつつある。

2) 活動のきっかけ・目的

活動のきっかけは、噂を伝え聞いた全国町並み保存連

盟の会員、高橋隆博先生（躬耕舎 地域・建築設計工房 代表）が、湧水研究家の大類雄一氏に誘われて、大山の地を訪れたことに始まる。先生はひっそりと建ち並ぶ酒蔵、民家群の風情あるまちなみを興奮した気持ちで散策後、その思いを伝えるべく訪れた大山自治会で、殆ど人目に触れることなく保存されている一枚の古絵図を目にすることになる。慶応元年（1865）に作成された「大山村絵図」の言わば再発見である。

縦二間（3.612 m）横二間半（4.853 m）ものこの大絵図には、街道筋、水路そして寺社・仏閣を骨格とした町割り町名、屋敷割り所有者名等が詳細に記入されており、その殆ど全てが現在に繋がる様が手に取るように読み取れるものになっている。

このままにはしておけない。何とかして地元の方々に、貴重な酒蔵・民家群、まちなみ景観の価値を再認識して貰いたい。この絵図面の再発見がそのきっかけにならないのか。ここから先生の地元住民、行政、大学への働きかけが始まることになる。

幸いにも、地元には郷土史と共にその文化財をこよなく愛し、その研究と後世への継承に一所懸命な大山文化財を愛する会（会員数約100名）が地道な活動を行っている。

高橋先生の提案に大きく頷いた中浜裕自治会長は、大山文化財を愛する会の主要メンバーと相談、平成17年7月26日の本会立上げを迎えることとなった。

立上げの会では、名称を「酒蔵の町天領大山のまちなみに学ぶ会」とすること。そしてその目標は、村絵図をとおして先人が営々として培って来た貴重な酒蔵・民家群、まちなみ景観の変遷を読み解くと共に、その価値の再認識と将来への継承の手立てを、住民、大学、行政の連携により探って見ることとした。



鶴岡市大山地区のまちなみ



収集絵図面 1

2. これまでの実績

平成 17 年 7 月 26 日：

「酒蔵の町天領大山のまちなみに学ぶ会」立上げ

8 月 19 日：高橋隆博先生講演及び大山村絵図調査

8 月 20 日：まちなみウォッチング調査

平成 19 年 2 月 21 日：

対象とする民家・建造物のリストアップ

2 月 22 日：民家・酒蔵の外観調査、写真撮影

2 月 23 日：民家・酒蔵の外観調査、写真撮影

3 月 19 日：民家・酒蔵の外観調査、写真撮影

3 月 20 日：民家・酒蔵の外観調査、写真撮影

3. 助成年度の活動内容

1) 活動の概要（全体像）と詳細内容

本会は活動のテーマである「酒蔵の町天領大山まちなみデータマップの作成」を目指して、以下のような活動に取り組んでいる。

絵図面・文献の調査（2月～9月）

大山地区のまちづくり、まちなみ形成を読み解くことを念頭に、本会活動のきっかけともなった慶応元年（1865）作成の村絵図に関する絵図面・文献資料の掘り起こし、収集調査を行っている。現在までに収集された資料については、写真データとしての保存措置を講じている。

まちなみ・建造物の洗出し、リストアップ（2月～3月）

江戸末期から明治、大正、昭和初期ごろまでに築造されたと思われる民家・酒蔵のうち、今までに文化財調査の対象とはなっていないまちなみ・建造物を中心に、以下の点に留意しながらリストアップを

行っている。

- ・概ね戦前（昭和 20 年以前）までに築造されていること。
- ・地域に根ざした伝統的建築様式、技法が見られること。
- ・絵図に見られる町割り、間口を継承する町屋建築の可能性を秘めていること。
- ・長年地域住民に親しまれ、印象に残る建造物として記憶されていること。
- ・これら建造物と連たんし良好なまちなみを形成していること。



まちなみ・建造物のリストアップ

まちなみ・建造物等外観調査（2月～6月）

作成されたリストを基に、まちなみ、対象建造物等の外観調査・写真撮影を行っている。

対象建造物の個別調査（7月～9月）

伝統技法や時代的様式が特に顕著に認められる建造物については、所有者の了解の下、個別調査、ヒアリング調査を実施しその特徴を明らかにする試みを行っている。



絵図面・文献調査



対象建造物個別調査

酒造り、酒蔵の変遷等の調査（8月～12月）

中心産業としてまちを支えて来た「大山酒」の歩みを切り口に、天領大山の歴史年表の取り纏めを行い、併せて、まち構造の中核を形作って来た酒蔵分布を変遷を慶応元年作成の村絵図上での再現も試みている。

「大山酒と慶応村絵図」データマップの作成（11月～1月）

得られた調査結果については、地元住民や観光客がまちあるきをする際のガイドマップとして活用できるデータマップ（A2版）として編集・整理、4,000部の印刷を行っている。

報告会の実施、まちあるきの実施

（1月20日、2月9日）

「大山酒」のまちとして培われて来た大山地区の貴重な酒蔵・民家群まちなみ景観の存在とその価値の再認識を促すために、広く住民の参加を呼びかけて活動報告会を実施している。加えて地区の恒例行事となっている「大山新酒・酒蔵まつり」のスタンプラリーに、データマップを配布して、マップを手にしながらのまちあるき情報の提供を行っている。

2) 協力者・協力団体との連携の経緯とその内容

先ず第一に、本会の母体は、前述のとおり大山文化財を愛する会であることから、そのメンバーが主体となって活動を支えている。加えて、自治会長を先頭に事務局長がマネジメントを行っており、自治会あげのバックアップ体制を執って貰っている。本会の活動がスムーズに行われた理由はここにあると考えている。



酒造り・酒蔵の変遷調査

また、活動の趣旨に賛同いただいた東北公益文科大学公益総合研究所の渋川智明、高谷時彦両先生には「公益ビジネス研究プロジェクト」として共同研究に位置づけて貰い、大学院学生の本会活動への派遣を始め物心両面からのご指導をいただいている。

さらに、伝統的建造物保存協力会からは、個別建造物の調査データの提供と共に取り組みへのアドバイスも頂戴している。

行政からは、将来的に都市計画マスタープランの地域別構想への活用を期待する都市計画課から職員が派遣され、情報提供、データ整理等のサポートが行われている。

加えて、本会の活動にご理解を賜り、酒蔵調査、資料提供に応じていただいた四軒の蔵元、そして民家の個別調査にご協力いただいた方々に感謝を申し上げます。

3) 活動推進にまつわるエピソード（データマップ編集視点の修正）

当初、データマップの作成においては、歴史的建造物としての民家・酒蔵のリストアップとマップへのプロットを主たるねらいとして、活動に取り組んで来た。

しかしながら活動の積み重ねと共に、「天領を支える酒蔵の町として培われて来た大山のまちなみ・まちづくりに、酒造りからのアプローチは欠かせない。」との会員の強い思いを受けて、現実に行われている蔵元（羽根田酒造）での醸造工程を記録すること。酒造りから見た大山の歴史を年表として取り纏めること。さらには慶応元年作成の村絵図上に往時の酒屋（酒蔵）を再現することとして、より酒蔵の町としての成立を強調する視点からデータマップの作成に取り組んで来ている。



「大山酒と慶応村絵図」データマップ作成

4. 活動の成果と課題

1) 目的・目標の達成度

言わば目的達成の手段としての活動テーマ「まちなみデータマップの作成」については、タイトルを「大山酒と慶応村絵図」として2008年1月20日付けで発行することが出来た。それ自体大きな成果と考えている。

併せて実施した活動報告会は120名を超える地域住民の方々の参加を得て盛会裏に開催することが出来た。参加者からは、「初めて知った。」、「改めて自分の住む大山の地に誇りを持った。」、「再認識した。」等の反響があり、大きな関心を喚起することが出来たと考えている。

また、2月9日に開催された恒例の「大山新酒・酒蔵まつり」のスタンプラリーには、町歩き資料としてデータマップを提供、大勢の方々にアピールすることが出来たものと評価している。

2) 地区内外への波及効果

前述した活動報告会への反響に見るとおり、本会の活動についての地区内へのインパクトは相当のものがあつたと自画自賛している。また新聞報道で大きく取り上げられたこともあり、県内は元より、県外からのデータマップ送付依頼が事務局に届く等の嬉しい展開も見せている。加えて、本データマップについては、まちあるき観光ガイドマップとしては勿論、学術資料としての活用を願って、観光協会、図書館、市役所観光担当課、社会教育担当課等への贈呈を行っている。

3) 活動の継続性

本会は今年度、図らずもH&C財団の助成を得て、ダイナミックな活動を展開し、データマップの発行まで

漕ぎ着けた。このことにより酒蔵・民家群そしてまちなみ景観に対する地域住民の大きな関心の喚起、価値の再認識を促すことが出来たと考えている。言わば足がかりが出来たと考えられることから、今後はそれを踏まえての更なるアピールと、併せてその継承の手立て、如何にして後世に残して行くかを主たるテーマとして、活動の継続を行う必要性を感じている。

その為には、活動の主体である大山文化財を愛する会の主要メンバーに加えて、若い年代の方々の活動への参加を促していく手立てが必要である。

4) 活動推進に活用した資源

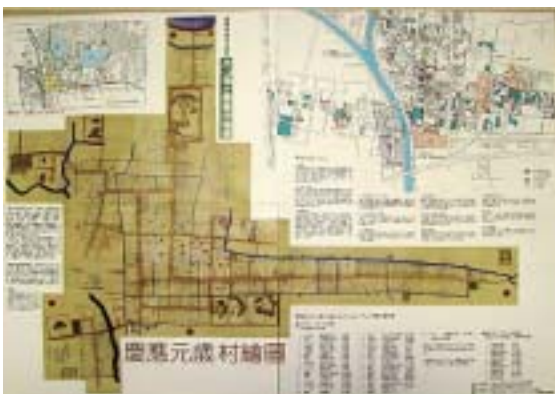
このことについてその殆どは既述していると感じているが、再掲するとすれば、先ず人材、情動的には、何を於いても高橋先生と言う指導者を得たこと。そして酒蔵等郷土史に造詣深い方々が、活動の主体である大山文化財を愛する会の主力メンバーであったことが挙げられる。

活動の拠点は、大山自治会のご配慮によりコミュニティセンターの青年談話室を全面開放して頂いているし、資金的には、全面的にH&C財団の助成に負っている。これがなければ指導者である高橋先生を大山の地にお呼びすることが叶わなかったし、データマップの発行は困難であつたと考えている。

加えて、東北公益文科大学公益総合研究所、鶴岡市とのネットワークも本会の活動を支えている。

5) 活動着手後に見えて来た地域・団体・活動が抱える課題と解決方策

最大の課題は、如何にして若い世代を活動に取り込んで行くか。さらには、如何にして住民主体の広範なまちづくり活動に繋げて行くかに掛かっていると捉え



完成したデータマップ「大山酒と慶応村絵図」



活動報告会

ている。

漸く再認識され始めた我が町のアイデンティティ、まちなみの素晴らしさ。それをアピールするデータマップも準備出来た。だとすれば、次のアクションは何か。登録文化財への働き掛け、伝統的建造物保存地区指定への期待、民家を使つてのカフェ・レストラン等々、色々な可能性が囁かれ始めている。

だからこそ、よりアクティビティの高い若い世代の活動参加を促して行く必要を痛感している。

5. 今後の展開

取りあえず、本会の次年度の活動は、ペンディングとなっている歴史的建造物としての酒蔵・民家群のリスタップと個別建造物の分析調査に取組み、別途「大山まちなみデータマップ」の完成を目指したいと考えている。

そのためには、酒蔵の町・天領大山のまちなみに学ぶ会の組織強化～特に若い世代の本会活動への取込み～は勿論、伝統的建造物保存協力会や建築士会等有識者団体とのさらなる連携を図る必要があると考えている。

活動資金は頭の痛い課題であるが、会費徴収は勿論データマップの有料販売をも試みながら、当面は各種団体等からの助成の道を探らざるを得ない状況にある。

何れにしても、地道な調査活動と積極的な情報提供を行うことにより、本会の活動が住民の広範なまちづくり活動に繋がるように一層努めて行きたい。その中から、次のアクション、次のステップの方向性は見出せるものと考えている。



「大山新酒・酒蔵まつり」スタンプラリー



収集絵図面 2